

寄居町中間平地区 ～中山間地域等直接支払制度

ふりがな	ちゅうげんだいらしゅうらく
地区名	中間平集落

中間平集落について

①中間平の歴史的背景

中間平地区は、第二次世界大戦時、旧折原村の簡易開墾地としてはじまり、終戦後は食糧増産政策が打ち出され、国により実施された緊急開拓事業により現在の中間平地区の土台が出来上がり、住民の移住も進みました。

当初、何も無いところから、山林の伐採・掘り起し、水の確保など生活するために必要なことを行い、長い年月をかけ地区として成長していきました。

戦後の中間平地区では、養蚕業が主な農業でした。広大な土地に桑畑が広がり、養蚕業が盛んに行われていました。

しかし、昭和50年代に養蚕業は衰退し、現在では桑畑は抜根され、代替として梅を植樹し、立派な梅畑となっています。また、8年ほど前から、寄居町の特産として力を入れているエキナセアを積極的に生産し、中山間事業で、将来像としている高付加価値農業、地場産農産物等の加工・販売という目標を達成すべく取り組んでいます。

②特色ある活動

集落協定にも記載されていますが、多様な担い手の確保を目的に、地元小学生を対象に、梅の収穫・選果等を体験してもらい、農業への興味を持ってもらう活動をしています。

この他にも、赤城山や筑波山、小川盆地からスカイツリーまで見渡せる風光明媚な里山地域の面影を残す中間平地区を維持していくために雑草・雑木刈り、用水路・畔路の補修などの作業を行い、農地を含む集落の保全管理に取り組んでいます。

【集落の将来像】

○ 中間平地区の持続的な農業生産活動のため体制整備をし、高付加価値農業を実践するとともに他集落への普及をさせていく。また、地場産農産物を利用した加工品の開発を行い、さらに販売を積極的に行っていく。



【将来像を実現するための活動目標】

○ 農用地の管理、担い手の定着、高付加価値農業の推進

農業生産活動等	高付加価値農業の推進
農地の耕作・管理(畑7.15ha) 個別対応 水路・作業道の管理 ・水路、年3回 清掃、草刈り その他随時草刈り等作業 ・道路、年3回草刈り 共同取組活動 その他随時草刈り等作業 農地法面の定期的な点検 (随時) 共同取組活動	エキナセアの葉を使い 加工品の開発を推進 お茶・アイス・うどん・かりんとう まんじゅう等を販売 最近では、寄居城北高校が開発に かかわったマドレーヌが注目となった また、干し梅や梅干し等の昔ながら の加工もしている。 アメリカ原産のハーブの一種である エキナセアを寄居町で初めて試 験的に栽培を開始した。 また、エキナセアの葉を使い、 さまざまな商品の開発を進めている。



集落外との連携

○ 健康活性農場(旧エキナセア生産組合)の一員として活動し、左記のような加工品の開発・販売をしている。
 しかし、加工品の種類や知名度、販路等の改善が必要な状態であり、他地区や町、商工会等と連携を進めている。

引き続き、高付加価値農業を推進することで、持続的な農業生産活動を行っていく。
また、さらに加工品開発、販売等を積極的に行っていく。

【第2期対策の主な成果】

- エキナセアの栽培管理方法の確立
- エキナセアに関するPR活動、他集落への栽培普及の働きかけ
- 地元小学校からの収穫体験の受入

【協定の概要】

協定面積	田	畑 (100%)	草地	採草放牧地	
7.15ha		エキナセア・梅			
交付金額	個人配分(48.6%)				
約25万円	共同取組活動 (51.4%)		農地の草刈・清掃活動		
			農道の維持管理		
			遊休農地防止対策(アーモンドの植栽)		
協定参加者	農業者 7人				

